

救急基金だより

1分1秒を争う、いのちのために
救急基金

- 救急基金の歩み
- 窓社会事業事例紹介
 - ・中道消防組合立消防本部
 - ・宇城広域消防本部
- お知らせ
- 平成11年度救急基金合計の決算
- 平成12年度救急基金合計の予算



救急基金は、災害手当ての普及など救急の振興のために活用されます。

財団法人 救急振興財団



救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度が始まって10年になります。その間、救急救命士養成を目的として設立された財団法人救急振興財団からは5,234人の救急救命士が誕生し、高度な応急処置により心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命率の向上には救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が欠かせません。また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

すなわち、尊い生命を救うためには一般住民の方々の正しい応急手当の理解と実践が大変重要であると考えます。

そこで、財団法人救急振興財団では応急手当の普及に向けて平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を救急基金として積み

立て、その運用益を活用して応急手当の普及など救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

【平成5年度～平成8年度】

住民の要請に応じて消防機関が派遣する応急手当指導員を養成するための講習会の開催

【平成9年度】

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱の作製

【平成10年度～平成12年度予定】

消防機関が住民向けに行う応急手当講習会で使用する資機材（心肺蘇生訓練用シミュレーターなど）の交付

寄附金募集事例紹介

中濃消防組合消防本部

刃物で有名な関市、和紙で有名な美濃市、木材で有名な武儀郡を抱える中濃消防組合消防本部は岐阜県の中南部に位置し、面積は約589k㎡を擁しているが全体の約8割を山林が占めています。この広大な面積の中で中濃消防組合消防本部（昭和46年4月設立）は2市2町3村で構成され、2消防署1分署5出張所で昼夜住民の安全を守っています。

中濃消防組合消防本部は応急手当の普及啓発活動に大変熱心で講習会を毎年20回以上開催しています。また、平成11年の「心肺蘇生法普及大会」には500名近くの一般住民の方々が参加して広くPRしまし

た。その結果として、平成11年5月に関市青年会議所が中心となって、一般住民の方々が構成された応急手当普及団体「命をつなげる会 中濃」となって結実しました。これは中濃消防組合消防本部等の熱意のためのものであり、他ではあまり例がなく、一般住民の方々が中心となって応急手当普及に向けて活動しています。メンバーには応急手当普及員の資格を取得した中学生が入って指導にあたるなど一般住民の意識の高さに敬服する次第です。

救急基金の寄附金の募集にあたっては各消防署やJA岐阜厚生連 中濃病院等に救急基金箱を設置していただき、職員や患者さんから寄附金をお預かりする以外に、「命をつなげる会 中濃」が救急の日(9月9日)に開催する「心肺蘇生法普及大会 in 中濃」などで出入口に救急基金箱を設置していただくなど積極的に寄附金を募っていただき、参加している方々から多くの賛同を得て寄附金をお預かりしています。

応急手当の普及は救急関係者から一般住民だけでなく一般住民から一般住民という草の根活動が効果的であり、今後、このような団体が全国にできれば、応急手当の普及にとっては非常に心強く思います。今後のますますの発展をお祈りしたい。



寄附金募集事例紹介

宇城広域消防本部

宇城広域消防本部は、熊本県のほぼ中心部に位置し、東部は山間部に囲まれ西部には有明海を望む自然の景勝地に恵まれた場所にあります。1市9町で構成されている面積463km²の管内には、約14万5千人の住民が暮らし、その生命を守っています。

平成11年9月24日早朝に台風18号が直撃したときには、職員の迅速な判断と的確な行動により、多くの住民が難を逃れることができました。しかしながら、稀にないほど勢力の大きかったこの台風は、高潮と重なったこともあり、不知火海沿岸を中心に襲った高潮によって、管内の不知火町などでは多数の死傷者が出てしまいました。このことには無念の思いが募るばかりです。倒壊した家屋の修理や、農地の塩害からの復旧には2年もの歳月と1000億円以上が費やされることになるそうです。1日も早く元の生活ができることを願ってやみません。

このような大災害に見舞われたにもかかわらず、復興に向けて地域と一致団結できるのは、日頃から常に住民に密着した消防本部だからでしょう。例えば、署内にある子供用の消防車と救急車や河童の人形などは職員の手によって作られたものであり、住民の立場から見れば親近感がもてそうです。そして、応急手当の講



習会は頻繁に行われていることから、住民への理解と協力を得るための熱意が感じられます。夏休みになると小中学校からの要望も増え、高校においては学年全体で普通救命講習を受けています。また、消防職員だけでなく民間の「救急ボランティア」(病院関係の方々をはじめとした有志の団体)による講習会も開かれていることから、応急手当というものが住民にとって身近なところで行われているように感じられるでしょうし、その重要性もわかっていただけるはずです。

限られた資機材の有効活用と同時に救急ボランティアと連携を取りつつ応急手当の普及啓発に力を注いでくださっていることに感謝したいと思います。



「救急の日」のお知らせ



9月9日は「救急の日」です。これは広く国民のみなさんに救急医療と救急業務に対する正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図るという趣旨から昭和57年に制定されました。

当日は「救急の日 2000」が東京駅丸の内北口で開催され、当財団では事業概要などをパネルで紹介しています。

